

VIII. 就業力の測定実施の取組み

VIII-1. 就業力測定テスト（客観テスト）

(1) 実施概要

- ・実施時期：2012年1月6日（金）、2012年1月27日（金）
- ・受験人数：計342名（内1年生258名）
- ・測定方法：河合塾×リアセックが用いる基礎力テスト「PROG（Progressreport On Genericskill）」に、別途、追加問題を用いて測定。

(2) 測定方法について

PROGとは、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力であるジェネリックスキル（PROG内では、問題解決力、コミュニケーション力・マネジメント力、自己管理能力と定義）を客観的に測定するテストである。

リテラシー分野と、コンピテンシー分野の両面から、学生の基礎力を測定している。

※リテラシー：知識を活用して問題解決する力

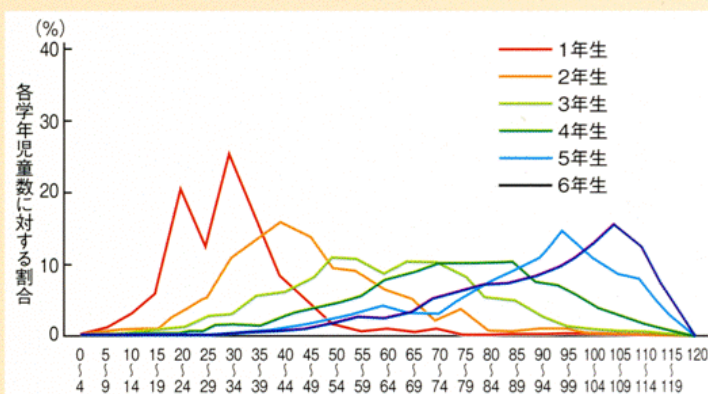
問題例：下記参照

図表VIII-1-（1）

問題のサンプル

右のグラフは小学校における学年ごとの国語学力の伸長を示したものです。このグラフに関する見解として正しいものを①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 3年生では学力の二極化が顕著に見られる。
- ② 1年生の学力差は就学前の学習量が原因と考えられる。
- ③ 学年が進むにつれ学力が平均化する傾向が見られる。
- ④ 3年生以降、生徒の学力は伸び悩む傾向が見られる。
- ⑤ 学年が進むにつれて学力の格差が広がっている。



⑨図9-1 小学校国語学力到達テスト（読解）の得点分布（天野・黒須，1992）
（『文章理解の心理学』大村彰道監修 村田喜代美 久野正樹編 北大路書房p135）

※コンピテンシー：経験を積むことで身についた行動特性

問題例：下記参照 図D

図表Ⅷ－１－（２）

連番	項目	選択肢	低← 経験値 →高
1	チームで作業に取り組むとき、一人だけ手を抜いているように思える人がいたら、あなたはどのように行動することが多いですか。	A 何か困っているのではないかと声をかける	1 2 3 4 5
		B 真剣に作業に取り組むように注意する	1 2 3 4 5
		C 黙って自分の作業に集中する	1 2 3 4 5
		D 一緒に頑張ろうと励ます	1 2 3 4 5

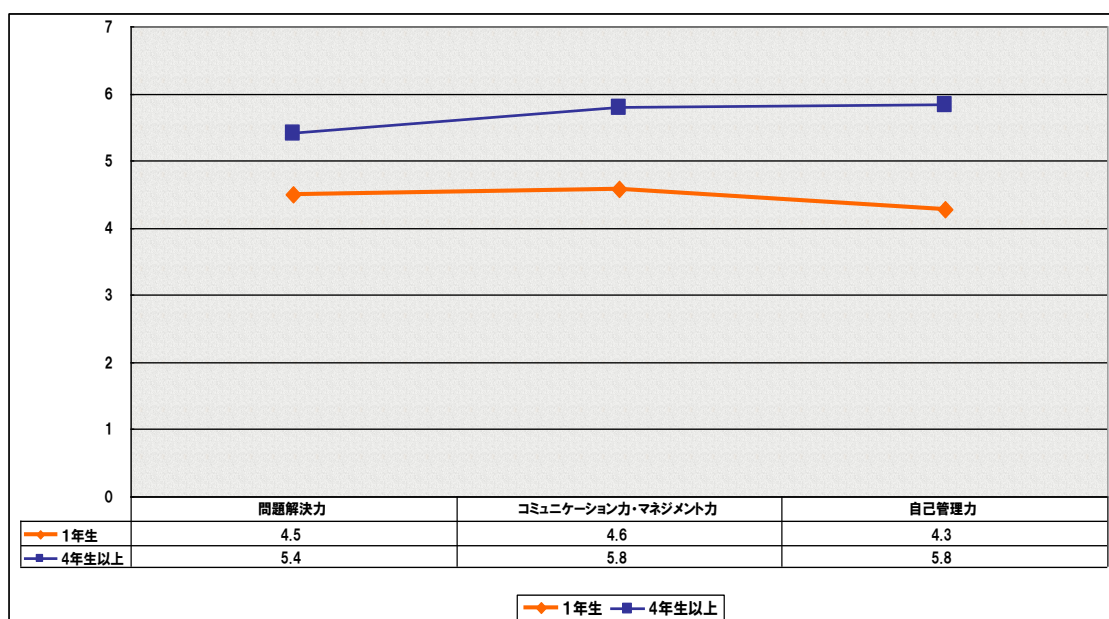
(4)測定結果

・ 1年生と4年生の比較

1年生と4年生を比較すると、4年生の基礎力が全体的に高くなっている。

問題解決力0.9ポイント、コミュニケーション・マネジメント力1.2ポイント、自己管理能力1.5ポイント高くなっている。

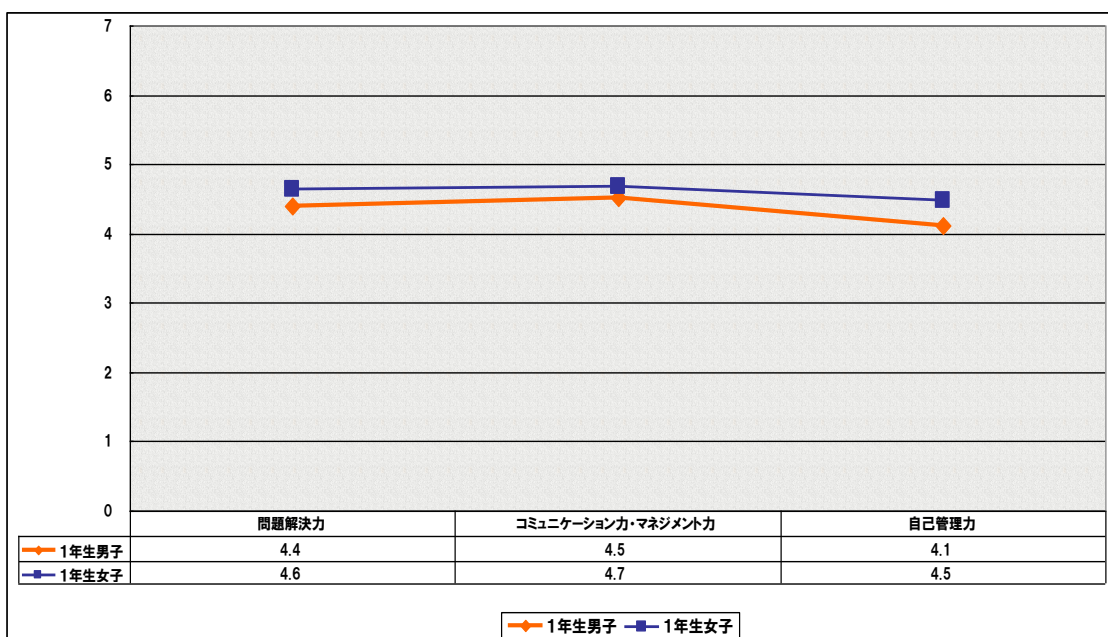
図表Ⅷ－１－（３）



・ 1年生男子と1年生女子の比較

1年生男子と1年生女子を比較すると、全体的に1年生女子の基礎力が高くなっている。
 問題解決力0.2ポイント、コミュニケーション・マネジメント力0.2ポイント、
 自己管理能力0.4ポイント高くなっている。

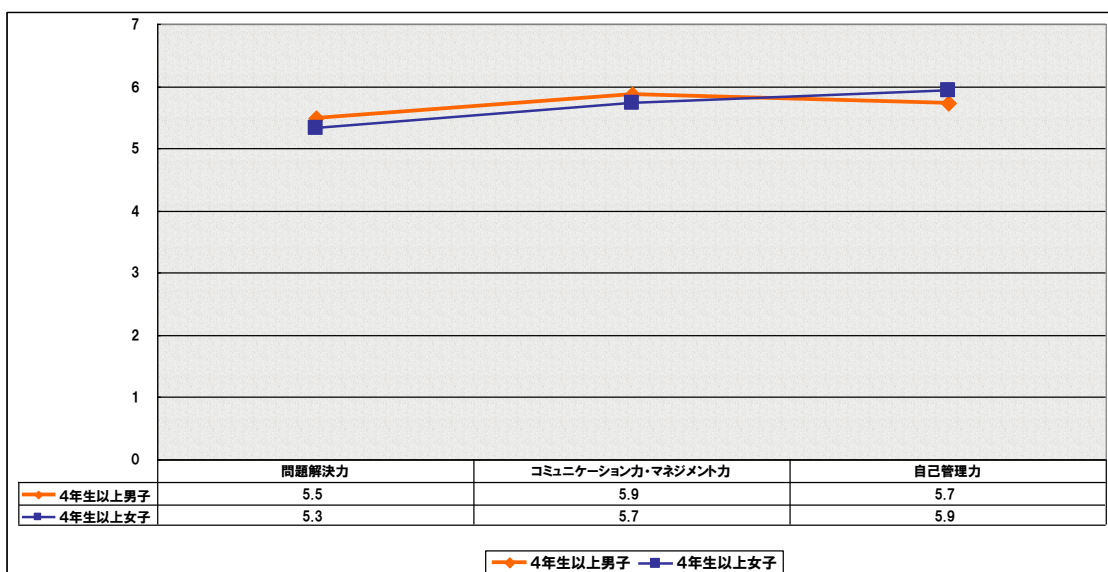
図表Ⅷ－1－(4)



・ 4年生以上男子と4年生以上女子の比較

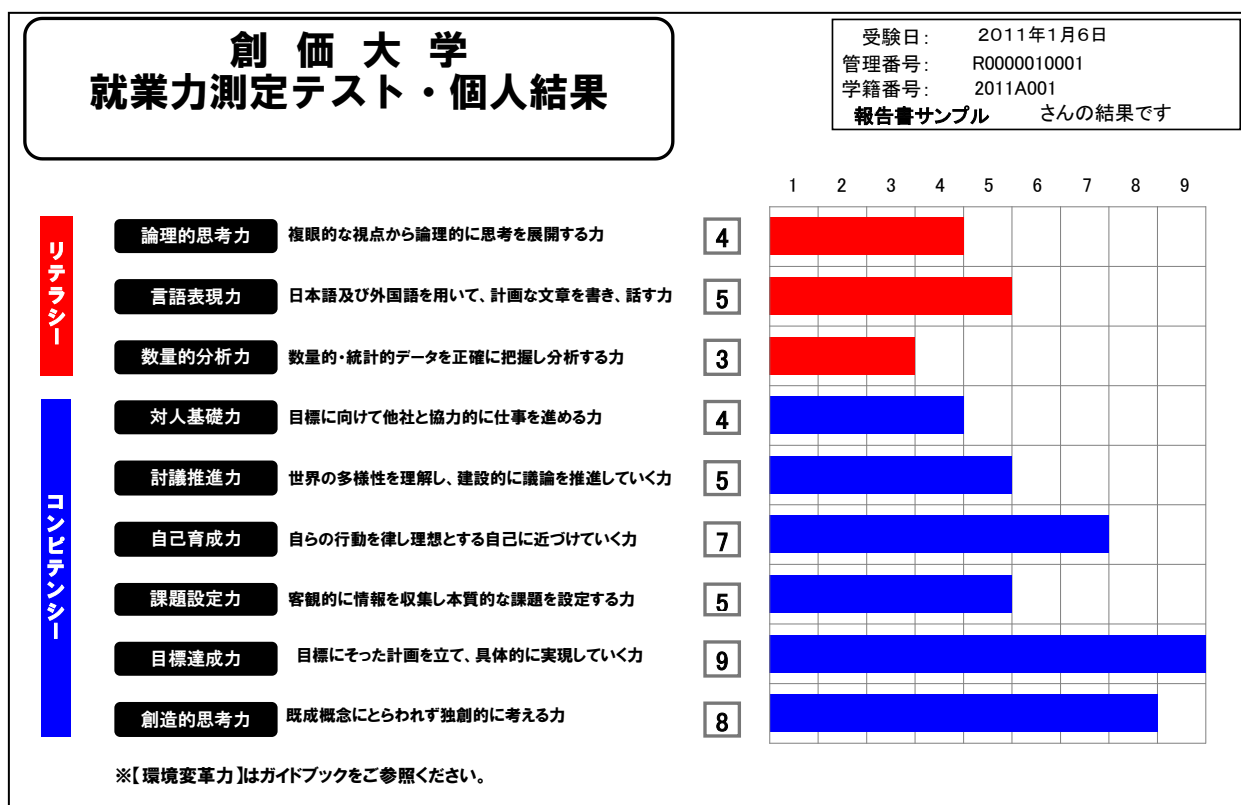
4年生以上男子と4年生以上女子を比較すると、4年生以上男子の方が、問題解決力
 0.2ポイント、コミュニケーション・マネジメント力0.2ポイント、又、4年生
 以上女子の方が、自己管理能力0.2ポイント高くなっている。

図表Ⅷ－1－(5)



今後に関しては、上記、PROGテストに追加問題を加えた結果から、学生の「創価大学の就業力測定結果」として、診断結果を学生に配布する。診断結果は下記の図表を参照。

図表Ⅷ－１－（６）



Ⅷ－２．就業力測定テスト（主観テスト）

(1) 実施概要

- ・実施時期：2012年1月16日（月）
- ・受験人数：社会貢献と経済学 受講者38名
- ・測定方法：紙による、創価大学の就業力測定セルフチェック票を用いる

(2) 測定方法について

主観（自己）評価には、各要素ごとに1～9の行動水準に回答する方法を用いた。

各「基礎力」に関する自己評価は、「5」を大学卒業／新卒レベルの標準行動と想定する9段階の水準尺度で作成している。

※ 図表Ⅷ－２－（１）参照

その後、各要素（小分類）の平均を算出し、中分類・大分類の値を出す。

平均値は、小数点を切り捨てし、値を算出している。

大分類の値が、創価大学の就業力になるよう設計している。

※ 図表Ⅷ－２－（２）参照

図表Ⅷ-2-(1)

●周囲や集団に対して (Q5~Q7)

Q5) 【役割理解・連携行動】 自分や周囲の役割を理解する・互いに連携・協力して物事を行う

1	集団の活動には非協力的な方である
2	
3	みんなで決めたことは、できるだけ協力するよう心がけている
4	
5	集団の中で、自分の担当の仕事をきちんと遂行することができる
6	
7	自分の役割だけでなく、関係者と連携をとりながら、協力して課題に取り組むことができる
8	
9	成果を上げるために、自分の果たすべき役割を自ら理解し、周囲と協力して課題に取り組むことができる

図表Ⅷ-2-(2)

創価大学の就業力 セルフチェック票 回答用紙 (回答例) 2012年1月16日(月)

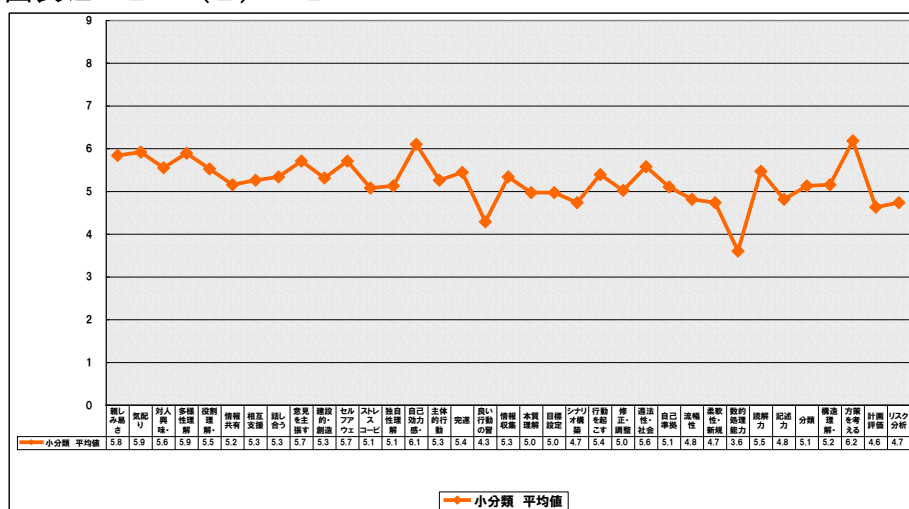
学籍番号 _____
名前 _____

設問	小分類	中分類	大分類
1	親しみ易さ	4	対人基礎力 目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める力 3
2	気配り	4	
3	対人興味・共感・受容	5	
4	多様性理解	4	
5	役割理解・連携行動	2	
6	情報共有	3	
7	セルフチェック票で回答した値を話し合う	4	
8	意見を主張する	統率力	討議
10	建設的・創造的討議		
11	セルフアウェアネス	中分類の値の平均値を書きます。 ※割り切れない場合は、小数点以下を切り捨て。(例:対人基礎力 3.5⇒3)	
12	ストレスコーピング	小分類の値の平均値を書きます。 ※割り切れない場合は、小数点以下を切り捨て。(例:親和力 4.25⇒4)	
13	独自性理解	自信創出力	自己育成力 自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力
14	自己効力感・楽観性	4	
15	主体的行動	行動持続力	
16	完遂		
17	良い行動の習慣化	3	
18	情報収集	課題設定力	課題設定力 客観的に情報を収集し、本質的な課題を設定する力
19	本質理解	5	
20	目標設定	計画立案力	目標達成力 自らの計画や目標を、具体的に実現していく力
21	シナリオ構築	実践力	
22	行動を起こす		
23	修正・調整		
24	遵法性・社会性	5	
25	自己準拠	創造的思考力	創造的思考力 既成概念にとらわれず、独創的に考える力
26	流暢性		
27	柔軟性・新規性		
28	数的処理能力	数量的分析力	数量的分析力 数量的・統計的データを正確に把握し分析する力
29	読解力	言語分析力	言語表現力 日本語及び外国語を用いて、計画な文章を書き、話す力
30	記述力		
31	分類	課題発見力	論理的思考力 権限的な視点から、論理的に思考を展開する力
32	構造理解・判断	構想力	
33	方策を考える		
34	計画評価		
35	リスク分析	6	

(3)測定結果 (小分類 結果)

多くの項目が、平均値5前後ではある。一番高い項目に関しては、「方策を考える」(6. 2)となっており、経験のあることならば、現実的で実行可能な解決策を考え出すことができると感じている学生が多くいる。一番低い項目に関しては、「数的処理能力」(3. 6)となっており、自分なりに、数学の知識や方法を用いて問題やデータ分析に取り組むが、解けなかったり他の人から分析が甘いと指摘されたりすると感じている学生が多くいる。

図表Ⅷ－2－(2)－1

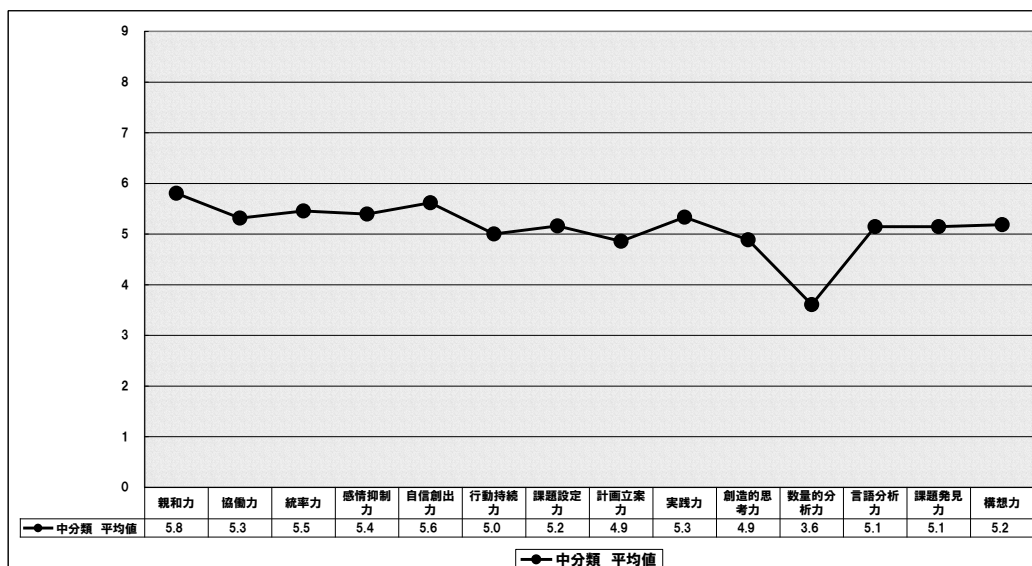


(中分類)

多くの項目が、平均値5前後ではある。一番高い項目に関しては、「親和力」(5. 8)となっており、相手の気持ちを考えたり、笑顔で接する事を心がけている学生が多くいる。

一番低い項目に関しては、「数量的分析力」(3. 6)となっており、自分なりに、数学の知識や方法を用いて問題やデータ分析に取り組むが、解けなかったり他の人から分析が甘いと指摘されたりすると感じている学生が多くいる。

図表Ⅷ－2－(2)－2



(大分類)

多くの項目が、平均値5前後ではある。一番高い項目に関しては、「対人基礎力」(5.6)となっており、目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める事を心がけている学生が多くいる。

一番低い項目に関しては、「数量的分析力」(3.6)となっており、自分なりに、数学の知識や方法を用いて問題やデータ分析に取り組むが、解けなかったり他の人から分析が甘いと指摘されたりすると感じている学生が多くいる。

図表Ⅷ－2－(2)－3

